

概要報告

実施期日	7月28日(火)【午前】
部会名	小学校 国語部会

テーマ 『 自分の考えを広げる授業の工夫～思考ツールを活用して～ 』

提案概要

国語の授業の中で、児童が戸惑いを見せる場面がある。それは、文章を読み取り表現することである。読みの作業から自分の考えをもつことに困難な児童や複数の情報を整理できず、内容が理解できていない児童など様々である。それは、思考の方法や手順を習得できていないことに原因があると考えられる。そのために、「シンキングマップ」は有効ではないかと考えた。シンキングマップは、児童の発想を広げたり考えを整理したりするには効果的な手段である。児童自身の思考している過程が目に見えて分かるので、イメージをふくらませるのに適している。これを使い、児童の思考を可視化し、そこから順序立てて読む力（書く力）の向上につなげていきたいと考えた。

今回はどのような授業の場面でシンキングマップを効果的に使えるか年間指導計画と照らし合わせて選び出し、実践を行った。本単元では、登場人物の性格を考える場面やあらすじを書く場面、考えを交流する活動の中でシンキングマップを用いた。また、意見の交流の場面では少人数グループでの相談活動ではなく1対1で聞き合う「聞き合いルーレット」という方法を用いて物語の内容や登場人物の気持ちの変化を読み取り、それぞれが設定した学習課題に迫っていった。その際、複数の相手に疑問を聞くことで、一人ひとりに考え方の違いがあることに気づき、比較しながら自分の考えを選択し思考を広げることに繋がっていった。

今回の実践でシンキングマップは様々な学習の場面で使用できることが分かった。年間を通した思考活動の積み重ねにより、児童自ら活用することを覚え、シンキングマップが思考を深める手段として身についたと思う。授業の内容が発展するにつれ、より効果が得られると考える。また、聞き合いルーレットは、全員が自分のもつ疑問に積極的に迫る姿が見られ、新しい気づきに出会う充実した活動となった。蓄積された情報の中から自分の考えをもち、友達の意見を聞き比較することで、新たな気づきや考えの広がりにつながった。

一方、それぞれが設定した課題から物語のもつ主題に十分迫れなかったことが課題として挙げられる。どの課題の根本にも「友達を大切に思う気持ち」がある。聞き合いルーレットの前後を比較してみると、後の方が、より友達を思う気持ちが考えに表れているのが分かった。しかし、聞き合いルーレットの様子や友達の意見が書かれたマップを見てみると、物語の内容や叙述に沿った考えでないものもあった。

質疑概要

- ・6つの課題はどこから作ったのか。
→初発の感想に疑問も書いてもらい、授業の中で解決できなかった疑問を設定した。
- ・マップは具体的に何年生くらいからできるか。聞き合いルーレットで1時間に何人くらいと交流できたか。
→1年生のときもマップを使用した。一人ひとりで書くのは難しいので、黒板に書いて全体で考えていった。使い方によっては低学年から可能。予定では2分。時間が足りなくて3分。5人と聞き合いをした。
- ・シンキングマップは子どもたち主体でやっていたのか。全体ではまとめていなかったのか。
→3人の登場人物の性格を考える場面では、自分の考え→友達と交流→自分の考えの順番。
全体でまとめる（共有する）場面はなかった。
- ・先生としてはもう少しここを…というのがありながら終わったのか。
→「ママがどうしてピンをいじるのか」という場面ではAさんがいい考えをもっていた。Aさんと交流できなかった子どもたちはいい考えを聞けなかった。全体でもやれば良かった。
- ・聞き合いルーレットでは、課題によって子どもたちの場所は整理しなかったのか。
→課題別のグループにするか全体で交流するか迷ったが、違う考えもあるということに気付いてほしかったので、全体で交流した。
- ・14、15ページの子どもたちの意見が変わった・変わらなかったとまとめた意図は何か。
→変わっても変わらなくてもいいよ、ということからスタートして、最初に自分の意見をもち、交流した後、最終的に自分の意見がもてていれば良いと考えた。

- ・15ページの下から2番目の考えは正直違うのであって、先生としてはどのように指導したのか。
→変わってもいいし、変わらなくてもいいと伝えてしまったのが良くなかった。主題に迫らなければいけないので全体に戻す場が必要だった。
- ・相談活動、カンバン方式とはどのようなものか。
→相談活動…3、4人でシンキングマップなどを使って話し合う。（今回は1対1）
カンバン方式…話し方、聞き方の型が掲示してある。発言が苦手な子どもでもその型を見ながら発言することができる。
- ・単元の目標が読むこと・書くこととなっていて最終的に感想文を書くが、この活動がどう生かされたか。
→感じ方が違うということが感想文に含まれる。自分の初めの考えと友達の考え、最終的な自分の考えが感想文の中に書かれている。
- ・友達と交流していく中で考えが変わって、主題からずれていくこともある。どうかかわって主題に戻してあげるといいか。
→協議の柱にもなっているので、協議会で話し合っていきたいと思う。

研究協議概要

協議の柱 ①自分の考えを的確に書いたり発表したりするための工夫

②グループ活動の中で学習課題に迫らせるための教師の関わり方

<グループ協議の発表から>

①について

- ・シンキングマップの積み上げが良い。書くのが苦手な子ども書きやすい。
- ・書けない子には型があるのも良い。少し小さい用紙（字数の少ないもの）を用意する。
- ・書くために考えをもつことができるような支援をする。教師が書けない子から話を聞き出しながら書かせる。
- ・少人数で話し合い、自信をつけてから全体へ。
- ・キーワードを出してからつなげて文にしていく。矢印の枠を作ってつなげていく。できた子、書ける子の意見を聞いてから書く。
- ・友達の意見を印刷して共有する。

②について

- ・子どもから出た課題を設定するのはやる気につながるのでもいい。教室の中に課題について出た意見を模造紙などにまとめて掲示する。
- ・主題に迫れるワークシート、課題設定をする。グループから全体へ、どこを根拠に考えたのか説明させるなどして外れないようにする。
- ・何を目的にしてグループ活動をするか。できる子の意見に偏りがちなので、話し合いの後、全体に戻す必要がある場合もある。
- ・低学年のグループ活動は教師がある程度サポートする。高学年は、主題から外れないよう教師が支援しながら活動する。グループ構成も配慮する。
- ・子ども同士が一つの課題に向き合う時間があると良い。教師がどうしてそう思うのかなど投げかけることで主題に迫れるのではないかな。

まとめ概要

- ・思考ツールとしてシンキングマップを使うのは有効である。自分の考えを遡ることもできるし友達と交流することもできる。ツールとして優れた部分もある。
- ・1対1の聞き合いルーレットはみんなの前で言うのが難しい子ども自分の意見が言える。
- ・全体の中で考えを深める際の教師の投げかけが重要になる。
- ・何を身に付けてほしいのかははっきりさせる。全体で考える時間が取れないなら机間巡視を充実させる。
- ・シンキングマップのいいところは、自分で書くものを広げられる。考えたことを見ていられる。また、どう考えたのか振り返ることができる。